
特 集 加齢で起こる病気の検査と治療薬

【巻頭言】

香 川 典 子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部病理解析学分野)

石 澤 啓 介 (徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野)

近年、わが国は超長寿社会を迎えており、人生100年時代が到来しようとしている。多くの人にとって、健康で長生きしたいということは共通認識であると思われるが、加齢により徐々に進行する体の機能低下や疾患を避けることは困難である。そのような背景において、加齢に伴って増加する疾患の理解を深めることは健康寿命の延長に寄与できると考えられる。さらに、病気の早期発見・早期治療には、種々の検査や薬物療法が欠かせない。

薬物療法施行中は、腎機能や肝機能などについて各種検査値をモニターすることが重要であり、副作用マネジ

メントにも大変有効である。特にがん化学療法における副作用は、患者のQOL低下に著しく関与するため注意を要する。また、がんの診断には病理検査が必須であり、病理・検査部門が医療全体の質を確保する役割を担っている。本企画では、薬物療法における検査値の重要性と病理検査について紹介し、加齢に伴う代表的な病気としての糖尿病や骨粗鬆症についても概説する。

本特集が、これからの超長寿社会において不可避となる加齢で起こる病気の検査と治療薬について考える機会となることを期待する。